

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 1 月 26 日作成)

小委員会名	磁気環境小委員会	主 査 名：石川 登 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (電磁環境運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：岡崎 靖雄
設 置 期 間	2005 年 4 月 ～ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>① 建物の磁気環境に関する現状および将来の課題の調査と整理</p> <p>② 建物環境の磁気シールドの用途と要求性能の把握</p> <p>③ 低周波磁気環境の健康影響に関する調査</p> <p>④ 磁気解析シミュレーション手法の特性把握</p> <p>⑤ 建物の磁気環境に関する各種性能測定法および評価法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アカデミックスタンダードの対応 <p>初年度～2年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商用周波数/低周波磁界を中心に磁界の生体・健康影響に関する調査 ・ 先端技術分野の磁気環境に関する動向、および対応する建築設備、性能の調査 ・ 環境磁場の測定評価法についての検討 (磁気環境評価WG) <p>3年度～4年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低周波磁界の生体・健康影響に関する調査 (継続) ・ 磁気シールドシミュレーション手法の特性評価 ・ 環境磁場の計測方法についての検討、AS 原案の作成 (磁気環境評価 WG) 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：石川 登 (清水建設) 幹事：新納敏文 (鹿島建設) 委員：岡崎靖雄 (岐阜大学)、石塚一男 (リケンエレクトック)、川瀬隆治 (東急建設)、山下直文 (積水ハウス)、小穴孝夫 (電力中央研究所)、竹内信次郎 (ユニテック)、中村裕介 (奥村組)、宮崎弘志 (大成建設)、山崎健一 (電力中央研究所)、伊丹 明 (伊丹イーエムシーラボラトリー)、田代英太 (波動システム研究所)、宮川忠明 (安藤建設)、齋藤章彦 (大同特殊鋼)	
設置 WG (WG 名：目的)	WG 名：磁気環境評価 WG 目 的：建物の磁気環境に関する各種性能測定法および評価法を検討し、アカデミックスタンダード化を図る。	
2008 年度予算	66,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s4/

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 6 回電磁環境シンポジウム 参加者数 51 名 「現場における計測評価法」
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 「環境磁場の計測方法 (静磁場、交流磁場、変動磁場)」として、アカデミックスタンダードの原案を作成し、「第 6 回電磁環境シンポジウム」の場を利用して公表し、パブリックコメントを求めた。(磁気環境評価 WG)

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. ①～③に関して情報収集等の調査活動を実施し、ほぼ目標とする成果を達成した。</p> <p>2. ④に関して、外部機関の協力を得て建築学会モデルに対する磁気解析を実施し、ほぼ目標とする成果を達成した。</p> <p>3. ⑤に関して、環境磁場計測方法の原案を作成し、目標とする成果を達成した。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1.</p> <p>2.</p> <p>3.</p>

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(~~中間年度評価~~・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> A B C D </div>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>①ならびに②に関しては、建物の磁気環境に関する要求仕様や新たな技術等について情報収集し、建築電磁環境として共通的に取り組むべき課題について検討した。得られた知見を、新年度から新たに発足する「磁気環境小委員会」の調査研究活動に活用していく予定である。</p> <p>③の低周波磁界の健康影響に関しては、活動期間中に WHO の主導による「国際電磁界プロジェクト」が終了し、EHC (Environmental Health Criteria) が発行された。国内でも、対応する保安基準の法制化を想定した委員会が経済産業省下に発足し、昨夏には最終的な報告が出された。これらの保安基準は建築電磁環境とも深く関連することが予想されるため、これまで、それらの国内外の動向を逐次把握することを努めてきた。今後も、法制化ならびに社会的な動向を継続して把握することが必要である。</p> <p>④の磁気解析シミュレーションソフトの特性評価に関しては、外部の 5 機関の協力を得て調査活動を実施できた。得られた成果は、2009 年度の大会で報告することを予定している。</p> <p>⑤の環境磁場の計測方法に関しては、アカデミックスタンダードの原案を作成することができ、電磁環境シンポジウムを通じて公表した。次年度は刊行小委員会に活動の場を移し、標準化のための作業を実施する予定である。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。